

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000472		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	グループホーム此の花		
所在地	愛知県豊田市保見町井ノ口73番地		
自己評価作成日	令和 2年 1月25日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000472-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症だけでなく、身体介護が重度となってもグループホームを退所することなく継続利用が出来るように、ベッドやトイレ、お風呂など様々な設備を最新の物を導入することで、利用者様には身体の負担なく日々の生活を送っていただいています。また、睡眠状態を常時記録できるシステムも導入しているため、巡視時以外でも利用者様の状態把握が出来、その情報を元に往診DRと連携を取り、より良い睡眠が取れるよう環境を整えることも出来ています。
往診Drは月2回の往診時だけでなく、緊急時の臨時往診にも対応して下さるため事業所内で対応できることも多く、病院受診等ご家族への負担も減らすことが出来ています。
今年度より、法人内で実務者研修を実施。当事業所からは4人の職員が参加し終了証を得ている。職員のスキルアップを促すことで、利用者様により良いサービスを提供できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前身である「どんぐりの家」から居る利用者や職員が多く、築き上げてきた関係性を保ちつつ、記録の電子化や食事作りの時間短縮により業務の効率化を図り、利用者や職員が関わる時間が増えたことで、いつも楽しそうな声が響き渡っている。事業所内では小型の老犬を飼っており、不穏になった利用者や寄り添い、言葉を発せられなくてもみんなから愛される大切な存在となっている。
母体が医療法人であることから、医療面での強みを活かし、利用者の状態に見合ったサービスが提供できるよう法人内のクリニックや老人保健施設との連携をとっている。
職員同士の関係性の良さから、情報共有がスムーズに行われており、支援内容や業務改善の課題にチームで向き合い取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊成会に関わる全ての人が豊かに成るという理念だけでなく新たにクレドカードの作成も行い職員に周知することで同じ理念を共有してサービスの実践を行うよう努めている	入職時に、理念に込められた意味を説明している。理念が事務所に掲示しており、職員全員にクレドカードを配付し、業務の基準となる行動指針を明確化して理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお神輿等の地域行事に参加させていたでいる。自治区広報に事業所の紹介と共に認知症相談窓口を掲載して頂いたが、現時点では特に相談者はいない	地域の行事予定は区長から情報提供があり、祭りなどに利用者が参加するときには、地域から歓迎の声をもらっている。地域の広報誌にホームの情報を載せてもらい、認知度アップを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して認知症の方への接し方や介護制度について話をする機会はあったが、一部の方のみであったため十分とは言えない。区長や民生委員と相談し、どのような活動が望ましいか検討中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子や具体的な運営状況等を報告している。区長様はじめ地域の方から具体的な意見が出ることは少ないが、出た意見は事業所運営に反映するよう努めている	会議には利用者、家族、地域、行政のそれぞれの代表者が出席し、ホームの取り組みや利用者の状況を報告して率直な意見交換を行っている。出された意見は職員にも共有し、運営改善に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の方等に地域との交流の様子や、事業所や利用者さんの状況を紙面だけでなく口頭でも細かく伝え、助言があれば各職員に通達してケアサービスに生かしている	市の担当者とは、直接出向いて話をしたり、電話で不明なことを聞いたりして、気軽に相談することができる関係である。地域包括支援センターとは、地域に向けての勉強会への協力等で連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束に関する内部研修を実施しているため禁止行為については全職員理解している。施錠に関しては、離接のリスクの高い利用者様がいるユニットについては施錠行っているが、状況を見てその都度開錠する時間を設けている	現在、身体拘束の対象者はいないが、定期的に社内研修を行い、スピーチロックなどの言葉の拘束に陥っていないか、振り返りの機会を設けている。職員同士で声を掛け合い、無意識にやっていることが拘束に繋がることを防止するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員入職時と年2回内部研修を実施し、全職員に対して身体拘束と虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、各フロアに監視カメラを設置し、万が一のことがないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見人制度を利用し入所されている利用者様はいるが、成年後見の方がどういった活動をされているか知らない職員も多いため、学ぶ機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に場を設けて説明会を開いて納得していただいたうえ、文書による通知を行うことで特に問題なくご理解いただけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時など、意見や要望があれば随時話を伺い、関係者と話し合ったり、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力している	家族会では、利用者の日常の様子を見てもらう時間を作り、意見を言いやすい環境作りに努めている。「趣味を活かせる環境を作ってもらいたい」という要望があり、実現に向けて取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部長が週1～2回は来訪し、各職員と話をされ、普段の様子も把握されている。そのため、こちらの意見や提案を言う機会が増えており、事業所運営にも反映されやすくなっている。また、職員からの相談窓口も用意している	法人の本部長に直接話ができる環境であり、職員から出された意見は、迅速に対応できる仕組みがある。主任が職員と個別に話を聞く機会を設け、小さな意見も運営に反映するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部長との個人面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた。また、人事考課を取り入れ優秀者には懇親会等で表彰する機会もできたため、職員のやる気向上にも繋がっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せることは無く、最低3ヶ月は試用期間を設けている。また、今年度より法人内で実務者研修を実施し、職員教育にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県GH協会に加入しており、様々な会議や研修などで情報交換を行い、お互いに良いところを取り入れあうことが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お会いして面談を行い、細かく要望等を聞くとともに、ご家族からも情報をいただき、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の負担にならないよう配慮しながら、ご自身で出来ることは行っていただき、掃除や料理などの家事も一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にとって、ご家族の存在の大切さを伝え、職員だけでなくご家族も一緒になって利用者様を支えられるような関係を作っているが、面会にほとんど来られず職員に任せきりのご家族も少なからずおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しい方が多いが、年賀状を書いたり、ご家族の協力が得られれば馴染みの場所へ出かける機会を持てるよう支援している	友人の訪問や年賀状のやり取りの関係が、継続できるよう支援している。家族の協力で、馴染みの場所に出向くこともある。ボランティアとの付き合いが長くなり、新しい馴染みの関係ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、リビングの席や居室を変えたり、職員が間に入るといった支援を行っている。また、行事レクでは両ユニットの利用者が交流出来るよう企画、実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居されたあとも、ご家族や退所先から要望があれば、日々の生活の様子や具体的なケアの方法などの情報を提供するなどの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人と話をする機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、何度も話をする機会を設けたり、ご家族と話をして過去の経歴等から情報を得ている	日常の関わりの中で、言葉で伝わることだけでなく、手を握った時の反応などからも思いや意向を把握している。お風呂でリラックスした時には、日常生活では出てこない思いを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集めたり、会話の中からも把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者様のその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察して現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月ケアチェック表を作成しケアマネの情報提供を行っている。それを元にモニタリングとサービス担当者会議を行っている。最終的に、ご家族にも意見をいただきプラン作成に反映している	利用者と家族から事前に意向を聞き、介護計画に反映させている。「ケアチェック表」は多面的に利用者の状況を記録する様式となっており、職員の気づきなどを集約してより良いケアに繋げる仕組みになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを複数台導入することで、記録の効率化を図り、職員間での情報の共有化に努めているが、記録が不十分な面もあり、介護計画の見直しには十分活用されているとは言い難い		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況や要望に沿って、職員間で相談し合い、先を見越したより良いケアが出来るように努めている。必要であればご家族の協力も仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築くよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが訪問診療を行っているため、細かな連携も取れており、今の利用者様に合った医療が受けられる環境ができています。容体が悪い場合はすぐに紹介状を書いていただき、協力医療機関を受診することで安全面の配慮もできています	かかりつけ医は、利用者の希望に沿えるようにしている。協力医の訪問診療の際に薬剤師も同行しており、服薬の注意点等をその場で聞くことができる。外来の通院受診は、家族の協力を得て対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様について気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えている。また、看護師からは介護職に医療の面でのアドバイスや実演を交えた指導を行い、ケアの向上を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている。また、可能な限り当事業所へ戻って来られるよう病院、ご家族と協力し支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についてご家族の要望を伺ったり、今後のケアの方向性について、Drを交えて相談し、アドバイスをを行っている。また、重度化した場合には特養等、より利用者様に合った施設の情報提供も行っている	重度化した場合、ホームとして対応できること、できないことを事前に説明した上で、利用者の身体機能等を考慮して、適切なケアが提供できる環境を提案している。重度化には、主治医・看護師とも連携して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初年度は消防署で開催される救命講習に参加する機会を設けて、急変時の対応を学んだが、今年度は実施出来ていない。3月に家族会と絡めて救急救命法を実施予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて、地域の避難所の確認を行い、此の花の現状を区長さんに伝えているが、実地訓練は充分とは言えない。運営推進会議と絡めて、避難訓練を一緒に行えないか検討している	年間2回、火災を想定した防災訓練が行われている。夜間を想定した避難誘導や、職員の煙道体験の結果から課題を出して改善点を検討している。地域との協力体制の強化が今後の課題となっている。	消防署立ち合いの訓練での改善点の確認や、災害時に地域に求める役割を明確化しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が気楽な声かけのなかでも、利用者様の尊厳を傷つけないよう細やかな配慮や対応を心がけている。	言葉遣いは慣れなれしくすぎないように気をつけ、気になることがあれば職員同士で注意し合っている。利用者の支援内容など、個人的な話をする時には、他の利用者に聞こえないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と関わる時間を増やし、会話内容やご本人の表情から思いや希望を読み取り、本人中心の支援ができるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や食事の時間などある程度のスケジュールはあるが、無理強いすることなくその人のペースに合わせた支援を行えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者様にはご家族協力のもと化粧品を用意したり、好みの服があれば職員と一緒に買いに行くといった支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託であるが、利用者様の好みに合わせておかずを選ぶことができるようになってきている。委託になった分時間に余裕もできたため、皆で準備や片づけをすることもできるようになってきた	業者から湯せん調理の食材を仕入れ、利用者と一緒に食事の準備をしている。敷地内の畑で採れる野菜を使って味噌汁にしている。野菜栽培には利用者のアドバイスもあり、育てて食べる楽しみを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。 また、水分でむせ込んでしまう方には、トロミを付けて提供するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の計4回、食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯磨きが出来ない方には状態に合わせてスポンジブラシや口腔ケア用ペーパーも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導を行っている。汚染等で本人がショックを受けないようパンツやパット等の使用方法を随時見直している	トイレでの排泄を、個々に合ったタイミングでできるように支援し、排尿感覚が鈍くなっている利用者には、タイミングを見計らい声掛けをしている。排泄の記録を職員で共有し、排泄用品等の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が摂れるよう支援したり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者様に合った薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入るメンバーや時間は決まっているものの、入浴を嫌がる方には順番を変えて気分が変わるのを待ったり、入浴日自体を他利用者様と入れ替えるといった支援を行っている	利用者の身体機能に合わせた設備があり、湯船に浸かることができなかった利用者も安全に入浴している。お風呂に入ることが嬉しくて、「他の施設に移りたくない」と話す利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルしいつでも見れるようにしている。また、服薬介助は可能な限り常勤職員で行うことを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者様には代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらおう等といったその人に合った支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のコマダ珈琲が閉店したことで気軽に喫茶店に出かける機会は減ってしまったが、車に乗って出かける機会が無くならないよう努めている。また、行事レクと絡めて、車椅子の方も外出できるよう介護車両をレンタルして全利用者様で外出する機会を作ることが出来た	日常的に散歩を行っており、ホームの畑にも行っている。自立度の高い利用者には他の利用者の車椅子を押してもらおうことで、大勢での外出が可能となっている。車を使い、定期的に県内の牧場へ出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分でお金を所持し管理することは現状では難しいので、事業所で管理し必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がして混乱がないようにしている。また、花や毎月の掲示物などを飾り季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している	共有空間は天井が高く、窓から心地よい日差しが入り、ゆったり過ごすことができる。掃除が行き届き、快適で居心地の良い空間になっている。利用者と職員が、洗濯物をたたみながら会話を楽しんでおり、自宅のように過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者様のレベルや相性を考えて決めている。1人になりたい方には居室以外に1人になれる場所はないため、居室で過ごしやすい環境を作るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者様の希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしているが、それが元で混乱が見られる場合は撤去も行っている	自宅からテレビや家具、写真などを持ち込み、居心地の良い環境を作っている。室内に洗面台があり、自分のペースで洗顔や歯磨きを行うことができる。可能な利用者は、自身で居室の掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で、ADL自立で入所された方が歩行器～車椅子と重度になっていく中でも不自由しないような設備を整えている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000472		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	グループホーム此の花		
所在地	愛知県豊田市保見町井ノ口73番地		
自己評価作成日	令和 2年 1月25日	評価結果市町村受理日	令和 2年 4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000472-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年 2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症だけでなく、身体介護が重度となってもグループホームを退所することなく継続利用が出来るように、ベッドやトイレ、お風呂など様々な設備を最新の物を導入することで、利用者様には身体の負担なく日々の生活を送っていただけています。また、睡眠状態を常時記録できるシステムも導入しているため、巡視時以外でも利用者様の状態把握が出来、その情報を元に往診DRと連携を取り、より良い睡眠が取れるよう環境を整えることも出来ています。
往診Drは月2回の往診時だけでなく、緊急時の臨時往診にも対応して下さるため事業所内で対応できることも多く、病院受診等ご家族への負担も減らすことが出来ています。
今年度より、法人内で実務者研修を実施。当事業所からは4人の職員が参加し終了証を得ている。職員のスキルアップを促すことで、利用者様により良いサービスを提供できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	豊成会に関わる全ての人が豊かに成るという理念だけでなく新たにクレドカードの作成も行い職員に周知することで同じ理念を共有してサービスの実践を行うよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りやお神輿等の地域行事に参加させていただいている。自治区広報に事業所の紹介と共に認知症相談窓口を掲載して頂いたが、現時点では特に相談者はいない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して認知症の方への接し方や介護制度について話をする機会があったが、一部の方のみであったため十分とは言えない。区長や民生委員と相談し、どのような活動が望ましいか検討中		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の様子や具体的な運営状況等を報告している。区長様はじめ地域の方から具体的な意見が出ることは少ないが、出た意見は事業所運営に反映するよう努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の方等に地域との交流の様子や、事業所や利用者さんの状況を紙面だけでなく口頭でも細かく伝え、助言があれば各職員に通達してケアサービスに生かしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回は身体拘束に関する内部研修を実施しているため禁止行為については全職員理解している。施錠に関しては、離接のリスクの高い利用者様がいるユニットについては施錠行っているが、状況を見てその都度開錠する時間を設けている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員入職時と年2回内部研修を実施し、全職員に対して身体拘束と虐待防止について学ぶ機会を設けている。また、各フロアに監視カメラを設置し、万が一のことがないように防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際成年後見人制度を利用し入所されている利用者様はいるが、成年後見の方がどういった活動をされているか知らない職員も多いため、学ぶ機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に場を設けて説明会を開いて納得していただいたうえ、文書による通知を行うことで特に問題なくご理解いただけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会来られた時など、意見や要望があれば随時話を伺い、関係者と話し合ったり、事業所運営に取り込めそうなことがあれば検討して積極的に反映できるよう努力している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人本部長が週1～2回は来訪し、各職員と話をされ、普段の様子も把握されている。そのため、こちらの意見や提案を言う機会が増えており、事業所運営にも反映されやすくなっている。また、職員からの相談窓口も用意している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部長との個人面談も増え、運営状況の報告を受けたり、こちらの意見や提案を言うことが出来る機会が増えた。また、人事考課を取り入れ優秀者には懇親会等で表彰する機会もできたため、職員のやる気向上にも繋がっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社したばかりの職員にいきなり仕事を任せることは無く、最低3ヶ月は試用期間を設けている。また、今年度より法人内で実務者研修を実施し、職員教育にも力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県GH協会に加入しており、様々な会議や研修などで情報交換を行い、お互いに良いところを取り入れあうことが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と直接お会いして面談を行い、細かく要望等を聞くとともに、ご家族からも情報をいただき、体調、精神状況を見逃さないよう細やかな視点にたち、情報を職員全員のものにして、日々の支援へとつなげている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様と同じように、ご家族ともしっかりと話し合いを行い、何を望んでいるかを把握し、ケアに生かせるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記のようにしっかりと話し合いを行いアセスメントをすること、又、本人のその時々様子から、本人の一番必要としているケアを導き出し、サービスの提供を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の負担にならないよう配慮しながら、ご自身で出来ることは行っていただき、掃除や料理などの家事も一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様にとって、ご家族の存在の大切さを伝え、職員だけでなくご家族も一緒になって利用者様を支えられるような関係を作っているが、面会にほとんど来られず職員に任せきりのご家族も少なからずおられる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	相互の加齢に伴い、馴染みの人との交流は難しい方が多いが、年賀状を書いたり、ご家族の協力が得られれば馴染みの場所へ出かける機会を持てるよう支援している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のレベルや相性を把握し、孤立したりストレスに感じる事が無いよう、リビングの席や居室を変えたり、職員が間に入るといった支援を行っている。また、行事レクでは両ユニットの利用者が交流出来るよう企画、実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退居されたあとも、ご家族や退所先から要望があれば、日々の生活の様子や具体的なケアの方法などの情報を提供するなどの支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんご本人と話す機会を設け、なにを望んでいるか情報収集を行っている。コミュニケーションが難しい場合は、何度も話す機会を設けたり、ご家族と話をして過去の経歴等から情報を得ている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や、入居前に利用していた施設や病院などから情報を集めたり、会話の中からも把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの話だけでなく、入居された利用者様のその時々の変化をとらえ、その方のペースをよく観察して現状を把握することに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月ケアチェック表を作成しケアマネの情報提供を行っている。それを元にモニタリングとサービス担当者会議を行っている。最終的に、ご家族にも意見をいただきプラン作成に反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテを複数台導入することで、記録の効率化を図り、職員間での情報の共有化に努めているが、記録が不十分な面もあり、介護計画の見直しには十分活用されているとは言い難い		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の状況や要望に沿って、職員間で相談し合い、先を見越したより良いケアが出来るように努めている。必要であればご家族の協力も仰いでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地域の民生委員の方や包括支援センターの職員の方等と協力関係を築くよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人のDrが訪問診療を行っているため、細かい連携も取れており、今の利用者様に合った医療が受けられる環境ができています。容体が悪い場合はすぐに紹介状を書いていただき、協力医療機関を受診することで安全面の配慮もできています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様について気付いたことや変わったことがあれば看護師に細かく伝えています。また、看護師からは介護職に医療の面でのアドバイスや実演を交えた指導を行い、ケアの向上を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーでの情報提供だけでなく、必要があれば電話や直接出向くなどして細やかな情報交換を行っている。また、可能な限り当事業所へ戻って来られるよう病院、ご家族と協力し支援を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的な医療が必要になった場合や、緊急時の延命治療についてご家族の要望を伺ったり、今後のケアの方向性について、Drを交えて相談し、アドバイスをしています。また、重度化した場合には特養等、より利用者様に合った施設の情報提供も行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初年度は消防署で開催される救命講習に参加する機会を設けて、急変時の対応を学んだが、今年度は実施出来ていない。3月に家族会と絡めて救急救命法を実施予定		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議を通じて、地域の避難所の確認を行い、此の花の現状を区長さんに伝えているが、実地訓練は充分とは言えない。運営推進会議と絡めて、避難訓練を一緒に行えないか検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が気楽な声かけのなかでも、利用者様の尊厳を傷つけないよう細やかな配慮や対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と関わる時間を増やし、会話内容やご本人の表情から思いや希望を読み取り、本人中心の支援ができるよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や食事の時間などある程度のスケジュールはあるが、無理強いすることなくその人のペースに合わせた支援を行えるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを気にする利用者様にはご家族協力のもと化粧品を用意したり、好みの服があれば職員と一緒に買いに行くといった支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が委託であるが、利用者様の好みに合わせておかずを選ぶことができるようになっていいる。委託になった分時間に余裕もできたため、皆で準備や片づけをすることもできるようになってきた		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が食べられない方には、食事とは別に高カロリー栄養剤を摂取してもらうといった方法で栄養バランスには気をつけている。 また、水分でむせ込んでしまう方には、トロミを付けて提供するなどの工夫をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後の計4回、食後の歯磨き、うがい等と、その方一人一人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。歯磨きが出来ない方には状態に合わせてスポンジブラシや口腔ケア用ペーパーも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者さんそれぞれの排泄タイミングを記録し、それに合わせた声かけ誘導を行っている。汚染等で本人がショックを受けないようパンツやパット等の使用方法を随時見直している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分が摂れるよう支援したり、運動を取り入れたりしている。頑固な便秘の方には、法人Drに相談して利用者様に合った薬の処方をお願いしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入るメンバーや時間は決まっているものの、入浴を嫌がる方には順番を変えて気分が変わるのを待ったり、入浴日自体を他利用者様と入れ替えるといった支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースでゆっくり出来る場所を確保すると共に、疲れた表情をされているときにはこちらから声かけし休んでいただくような支援を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様ごとに服用している薬の効果や副作用の書かれている用紙をファイルいつでも見れるようにしている。また、服薬介助は可能な限り常勤職員で行うことを徹底している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人との交流が好きで責任感がある利用者様には代表で挨拶をお願いしたり、家事で人の役に立ちたいと思っている方には無理のない範囲で手伝ってもらう等といったその人に合った支援を心がけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	隣のコマダ珈琲が閉店したことで気軽に喫茶店に出かける機会は減ってしまったが、車に乗って出かける機会が無くならないよう努めている。また、行事レクと絡めて、車椅子の方も外出できるよう介護車両をレンタルして全利用者様で外出する機会を作ることが出来た		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が自分でお金を所持し管理することは現状では難しいので、事業所で管理し必要に応じて職員と一緒に使うといった機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に連絡したいと言われる利用者さんがいれば必要に応じて電話を取り次ぎ、手紙を書ける方には職員支援のもと、ハガキ等を書いていただきご家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がわかりやすいよう居室やトイレには張り紙がして混乱がないようにしている。また、花や毎月の掲示物などを飾り季節感を出しているが、それが元で混乱するような方であれば撤去するなどして対応している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの席は利用者様のレベルや相性を考えて決めている。1人になりたい方には居室以外に1人になれる場所はないため、居室で過ごしやすい環境を作るようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた馴染みの物品や好みの品などあれば、入居時だけでなく、利用者様の希望があればご家族に相談して用意していただくといった環境作りをしているが、それが元で混乱が見られる場合は撤去も行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で、ADL自立で入所された方が歩行器～車椅子と重度になっていく中でも不自由しないような設備を整えている		